

その他災害編 ①「風水害・土砂災害」

風雨による危険度のチェックポイント

1時間雨量による雨と被害の目安

※降水量が1時間1mmとなる水の量とは、1㎡の面積に1mm(1リットル)降ること。

やや強い雨

ザーザーと降る雨。地面いちめんに水たまりができます。長く続く場合は注意が必要です。

10~20mm/h

強い雨

どしゃ降りの雨。側溝や下水があふれ、小川のはん濫、崖崩れの心配もあります。

20~30mm/h

激しい雨

バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになり、規制も行われます。

30~50mm/h

非常に激しい雨

滝のようにゴーゴーと降る雨。多くの災害が発生するおそれがあります。

50~80mm/h

猛烈な雨

息苦しくなるような圧迫感があり、雨による大規模災害が発生するおそれがあります。

80mm以上/h

風と被害の目安

※風速は10分間の平均風速です。最大瞬間風速は平均風速の約1.5倍~3倍以上になることがあります。

やや強い風

風に向かって歩けにくくなります。取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始めます。

風速10~15m/s

強い風

風に向かって歩けず、転倒する人も出ます。ビニールハウスが壊れるなどの被害が出ます。

風速15~20m/s

非常に強い風

鋼製シャッターの破損や、風で飛ばされた物で窓ガラスが割れるおそれがあります。

風速20~25m/s

非常に強い風

ブロック塀が壊れたり、取り付けの不完全な外装材が飛ぶ危険があります。

風速25~30m/s

猛烈な風

屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊なども発生するようになります。

風速30m/s以上

風水害や土砂災害は、急激に状況が変化することがあります。異変を感じたら、すぐ避難しましょう。

土砂災害の前ぶれ現象に注意

一般的に土砂災害は、降雨や融雪で地中の水分が増して地盤が緩み、さらに長雨や強雨が続いたときに発生するとされています。次のような現象を察知した場合は、直後に土砂災害が起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。



土砂災害警戒情報とは 大雨により土砂災害発生の危険度が高まった市区町村に出されるものです。

雷や竜巻に備える

発達した積乱雲により、雷や竜巻、集中豪雨が発生することがあります。屋外で行動する場合は、雷注意報や竜巻注意情報が発表されていないかなど気象情報を確認しましょう。



雷鳴が聞こえたらすぐ避難

- 雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいてきます。屋外にいる場合は、安全な場所へ避難しましょう。

建物の中や自動車へ避難

- 建物や屋根付きの乗り物(自動車など)へ避難しましょう。
- 雨宿りで木の下に入るのは危険です。

木や電柱から4m以上離れる

- 木や電柱に落ちた雷から放電するおそれがあるので、4m以上離れましょう。
- 近くに避難する場所が無い場合は、姿勢を低くしましょう。



頑丈な建物の中へ避難

- 避難するときは飛ばされた看板などの飛来物に注意しましょう。
- 避難できない場合は、物陰やくぼみに身をふせましょう。
- 車庫・物置・プレハブ(仮設建築物)への避難は危険です。

屋内でも、窓や壁から離れる

- 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動しましょう。
- 窓やカーテンを閉めましょう。
- 頑丈な机の下に入り、身を守りましょう。



防災ひとくちメモ②

気象情報の確認は「キキクル」で！

気象庁が提供する「キキクル(大雨・洪水警報の危険度分布)」を使用して、大雨時の災害発生危険度の高まりを地図上で随時確認することができます。

キキクル

